

山口情報芸術センター [YCAM] : 滞在制作 / 新作演劇公演



マレビトの会 「PARK CITY」

作・演出 松田正隆 / 写真 笹岡啓子

8月28日(金) 19:00 / 29日(土) 14:00*・19:00 / 30日(日) 14:00* 開演 (各公演30分前開場)

* 終演後、参加アーティストとゲストによるポストトークをおこないます。

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA



「声紋都市 -父への手紙」(フェスティバル/トーキョー 2009) 撮影:青木 司



笹岡啓子「PARK CITY」より (2007)

YCAMが初めて挑戦する本格的な演劇作品。

「演劇」を裏切る、新しい体験を提案します。

山口情報芸術センターは、劇作家/演出家の松田正隆(マレビトの会)と、写真家の笹岡啓子(photographers' gallery)による新作演劇作品「PARK CITY(パーク・シティ)」を発表します。本作は、作家が山口に滞在し、YCAMの専門スタッフとともに表現の可能性を探求する「滞在制作」によって発表するYCAMオリジナル作品です。舞台芸術と写真、そしてメディア技術がもたらす新たな世界。時間と空間、身体感覚が交錯する新しい演劇体験を提案します。

言葉と写真が描く、PARK CITY=「広島」。

舞台から遠くはなれた客席には、一人一台の映像モニタ。

舞台芸術の可能性を模索し、実験的な作品を発表し続ける劇団「マレビトの会」。代表の松田正隆は、数々の演劇賞を受賞し、90年代から現在まで日本の演劇界をリードする劇作家/演出家の一人です。今回の新作には、都市の風景を切り取り、その独自の視点が高い評価をうける若手写真家の笹岡啓子が参加。戦後、公園(PARK)を中心に開発された都市「広島」をテーマに、二人のテキストと写真が、都市にある潜在的な記憶を描き出します。

また、劇場では、あえて舞台から遠く離れた位置に客席を用意。観客一人につき一台の映像モニタを設置します。こうした新しい鑑賞スタイルを通し、観客は、テキストと写真、音声と映像が、時間と空間を往来する新たな演劇を体験します。松田正隆の書き下ろし脚本と演出、笹岡の写真、そしてYCAMの特徴であるメディア技術を盛り込んだ本作。今までにない先鋭的な作品が誕生します。

ウェブサイト: <http://parkcity.ycam.jp/>

■ 報道関係者向け試演会 7月26日(日) 14:00-16:00

※上演は20分程度を予定しています。

終演後、参加アーティストがインタビュー等に応じます。

主催: 財団法人山口市文化振興財団、財団法人びわ湖ホール、マレビトの会、photographers' gallery
 後援: 山口市、山口市教育委員会
 企画・制作: 山口情報芸術センター [YCAM]、びわ湖ホール、マレビトの会、photographers' gallery
 文化庁平成21年度舞台芸術振興の先導モデル推進事業(舞台芸術共同製作公演)
 助成: 財団法人地域創造、財団法人アサヒビル芸術文化財団、財団法人セゾン文化財団(「マレビトの会」の年間活動助成)

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は下記までご連絡ください。

お問い合わせ 広報担当: 廣田、辰村

〒753-0075 山口県山口市中園町7-7 TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216

e-mail: information@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>



山口情報芸術センター
 Yamaguchi Center for Arts and Media



マレビトの会 「PARK CITY」

作・演出 松田正隆 / 写真 笹岡啓子

パフォーマンスアートにおけるメディア表現の可能性を追求し、俳優と観客が共有する時間と空間を切りひらく新たな演劇を提案する本作。ノンフィクションとフィクション、記憶と忘却、ライブと記録、身体とメディア、といった様々な境界を意識させる実験的な演劇作品が実現します。



広島を題材に描き出す、都市にまつわる不可視の記憶

モニュメントを中心に再開発された都市に潜む、記憶と声を創作する

本作のタイトル「PARK CITY」は、広島に生まれ育った笹岡が、同地を離れたことで撮り始めた広島平和記念公園をおさめた作品の名前でもあります。現在31歳の笹岡は、戦後の先達たちが撮ってきた被爆地「ヒロシマ」とは異なるスタンスで広島に向かっています。本作では、彼女の写真を一つの出発点に、戦後、公園（PARK）というモニュメントを中心に開発された「広島」をめぐる、都市の潜在的な記憶を描きます。



本作の脚本を書き下ろす松田正隆は、取材と執筆により歴史に埋もれた人々の声を「発掘」し、俳優の身体を通して「報告」する独自の的方法論を確立しています。近作「アウトダフェ」（2006）、「クリプトグラフ」（2007）では、カンパニー「マレビトの会」としても一つの到達点をみせ、さらに、前作「声紋都市—父への手紙」（2009）では、自らの故郷である長崎や実父を取材することで、ドキュメンタリーの要素を取り入れ、その方法の幅を広げました。今回も、広島の人々や土地へのリサーチを通じて集めた「声」を脚本へ再構成し、記憶の「証言」を演劇として描き出します。

一人の役者が一つのキャラクターを演じる物語でなく、抽象的、断片的なテキスト群が交錯する圧倒的な言語世界。笹岡による安易なメッセージ性、感情移入をあえて拒む独自の距離感をもった写真とともに、観客の言語と視覚感覚を拡張します。



写真と言葉による独特の制作方法

劇作家と写真家が、互いのアイデアを交換することで生まれる多層的な時間軸

今回の新作では、「広島」をモチーフに、松田と笹岡が、互いのテキストと写真を交換。つまり、松田のテキストを元に、笹岡が撮影し、さらにその写真が演出に刺激を与えていく、新しい演劇の制作方法を用います。こうして生まれた構想と脚本は、舞台芸術にある現在（ライブ）と、写真という記録／複製メディアの機能を際立たせ、複雑に絡み合った時間を築き上げます。現在と過去に留まらない多層的な時間軸のなかで、観客は、本作のテーマである都市の記憶と、都市への開かれた視点を感じることができます。



舞台から遠く離れた客席と、一人一台の映像モニタ

俳優と観客、身体と声、舞台と映像…。鑑賞を操る、複雑な距離感。

客席として使用するのは3階席のみとし、眼下に広がる舞台空間を俯瞰する独特の鑑賞スタイルを構築する本作。舞台空間を、非日常から日常へと近づけようとする舞台作品とは異なり、観客は、舞台との隔たりや距離を意識的に体感します。

さらに、それぞれの客席には、一人一台の映像モニタを設置。舞台に向けられたカメラ、そして予め撮影された映像が、観客の近くに突如として、あらわれます。映像モニタやスピーカを多用した本作の機構は、舞台と客席の物理的な距離、メディア技術がもたらす間接的な距離、さらに舞台芸術と写真がもつ現在と過去との距離までも、様々な操作します。パフォーマンスアートにおける鑑賞のスタイルに、メディア技術を積極的に盛り込むことで、観客に新しい演劇体験を提案します。



写真上から：「声紋都市—父への手紙」（アイホール 2009）撮影：相模友士郎 / 「血の婚礼」（アトリエ劇研 2008）撮影：相模友士郎 / 「クリプトグラフ」（カイロ・MIAMI THEATER 2007）撮影：橋本裕介 / 笹岡啓子「PARK CITY」より（2007） / 同左 / 同左

山口情報芸術センター [YCAM] の滞在制作とは…？

山口情報芸術センター [YCAM] 企画・制作のもと、アーティストが3週間～1カ月間にわたってYCAMに滞在し、アート／パフォーマンス作品を制作する「滞在制作」。YCAMでは、この「滞在制作」により、これまでに約40点ものオリジナル作品の制作／発表をおこなってきました。既存の優れた作品を紹介するだけでなく、YCAMから国内外へと作品を発信するこの取り組みは、公演と展示の両スペース、さらに専門の技術スタッフによる制作セッション「YCAM InterLab（インターラボ）」を併せもつYCAMの特徴のひとつといえます。こうして生まれた数々の作品は、国際的にも高い評価を受けています。

■ 近年の滞在制作による作品（パフォーマンスアート）

珍しいキノコ舞踊団×plaplast「The Rainy Table」（2009）、白井 剛+川口隆夫+藤本隆行「true / 本当のこと」（2007）

プロフィール



「クリプトグラフ」撮影：橋本裕介



撮影：相模友士郎

マレビトの会

2003年、舞台芸術の可能性を模索する集団として設立。代表の松田正隆の作・演出により、2004年5月に第1回公演「島式振動器官」を上演。2007年に発表した「クリプトグラフ」では、カイロ、北京、上海、インドを巡演するなど、その活動は海外にも広がる。非日常の世界を構想しながらも、今日におけるリアルとは何かを思考し、京都を作品制作の拠点として創作を続けている。

<http://www.marebito.org/>

松田正隆

劇作家／演出家 マレビトの会

1962年、長崎県生まれ。1990年～1997年まで劇団時空劇場代表を務め、劇作・演出を手がける。1994年「坂の上の家」で第1回OMS戯曲賞大賞受賞。1996年「海と日傘」で岸田國士戯曲賞受賞。1997年「月の岬」で読売演劇大賞作品賞受賞。1998年「夏の砂の上」で読売文学賞受賞。2000年には京都府文化奨励賞を受賞。劇団解散後、フリーの劇作家として、青年団、文学座、演劇集団円などに作品を書き下ろしている。また、作品は韓国、中国、エジプト、アメリカ、フランスなど海外でも翻訳・上演されており、「海と日傘」は日本戯曲として初めて韓国の第41回東亜日報演劇賞を受賞。舞台戯曲の他、黒木和雄監督作品「美しい夏キリシマ」にて映画脚本を手がけ、「紙屋悦子の青春」は原作として映画化されている。

2003年よりマレビトの会を結成し、劇作及び演出活動を開始。マレビトの会の主な作品に「島式振動器官」、「パライゾノート」、「アウトダフェ」、「クリプトグラフ」、「声紋都市－父への手紙」などがある。

現在、京都造形芸術大学 舞台芸術学科客員教授。

<http://www.marebito.org/>

笹岡啓子

写真家 photographers' gallery

1978年、広島県生まれ。2002年東京造形大学卒業。ギャラリーの運営、展覧会や写真講座の企画、機関誌や写真集の発行など、「写真」というメディアを使って多岐にわたる活動を展開する写真家集団photographers' galleryの設立メンバー。機関誌「photographers' gallery press」2～7号編集責任。2008年、VOCA展奨励賞受賞。

2001年、初の作品発表以来、意欲的に国内外で個展やグループ展を開催。広島に育ち、街を離れたことから、歴史的な街（広島）の内側と外側を見つめる。その経験が、多くの作品に影響を与えている。一方で力強さを、また一方ではクールさを感じさせるその視点が多くのファンを魅了。現在、数々の批評家、写真愛好家から期待される若い世代の写真家の一人。

photographers' gallery <http://www.pg-web.net/>

開催概要

山口情報芸術センター [YCAM]：滞在制作／新作演劇公演

マレビトの会「PARK CITY」

日時：8月28日（金）19:00／29日（土）14:00*・19:00／30日（日）14:00* 開演（各公演30分前開場） *終演後、参加アーティストとゲストによるポストトークをおこないます。

会場：山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

■チケット

全席自由

【前売】一般 3,000円／any会員・特別割引 2,500円／25歳以下 2,000円

【当日】3,300円

チケット発売日：any会員先行 7月4日（土） 一般 7月11日（土）

■チケットのお求め（any 会員、一般とも共通）

【電話／窓口】

山口市文化振興財団チケットインフォメーション（YCAM内）

083-920-6111（10:00～19:00 火曜休館 祝日の場合は翌日）

【インターネット】

山口市文化振興財団 <http://www.ycfcp.or.jp>（24時間受付、要事前登録）

- 特別割引：シニア（65歳以上）、障がい者及び同行の介護者1名が対象。（当日券は各種割引の対象外）
- 未就学児入場不可
- 託児：有料 8月21日（金）までに上記チケットインフォメーションへ要申込み。
- 車椅子席・補聴システム：事前にお問い合わせください。
- any会員について：山口市文化振興財団webページからご入会いただくか、お電話、窓口でお問合せください。お電話で入会申し込みの場合は、手続きに10日程度かかります。

作・演出：松田正隆

写真：笹岡啓子（photographers' gallery）

出演：牛尾千聖、F.ジャパン、桐澤千晶、ごまのはえ、島 崇、武田 暁、西山真来、栢谷雄一郎、宮本統史、山口春美

舞台監督：夏目雅也、岩田拓朗（YCAM InterLab）

舞台：宇野三津夫・岩田拓朗（YCAM InterLab）、Clarence Ng（Esplanade）

音響：伊藤隆之（YCAM InterLab） 録音：荒木優光

照明：高原文江（YCAM InterLab） 映像：大脇理智（YCAM InterLab）

衣裳：堂本教子 モニタシステム：伊藤隆之（YCAM InterLab）

プログラム：演 哲史（YCAM InterLab）

ドラマツルグ：田辺 剛 演出助手：米谷有理子 技術協力：YCAM InterLab

制作：竹下暁子・塩見直子（YCAM）、森真理子・西村麻生（マレビトの会）

宣伝美術：田中 勲（photographers' gallery）

主催：財団法人山口市文化振興財団、財団法人びわ湖ホール、マレビトの会、photographers' gallery

後援：山口市、山口市教育委員会

企画・制作：山口情報芸術センター [YCAM]、びわ湖ホール、

マレビトの会、photographers' gallery

文化庁 平成21年度舞台芸術振興の先導モデル推進事業（舞台芸術共同製作公演）

助成：財団法人地域創造、財団法人アサヒビール芸術文化財団、

財団法人セゾン文化財団（「マレビトの会」の年間活動助成）

協力：魚灯、劇団衛星、ニットキャップシアター

関連イベント

YCAMでは、実験的な演劇作品をより深く理解し、たくさんの方々に楽しんでいただけるよう、様々な関連イベントを開催しています。2009年5月には地元大学との連携により松田正隆の出張レクチャーを、そして6月にはYCAMでのレクチャーを開催。このほか、滞在制作の様子を一般に公開する「バックステージツアー」や、作品に関連した映画の上映も実施。終演後にはゲストを招いてのポストトークもおこないます。演劇公演をもっと面白くする充実したイベントを、あわせてお楽しみください。

レクチャー

5月7日(木)

山口大学講義内 出張レクチャー

講師：松田正隆 (マレビトの会)

大学と連携し、大学生を対象に山口大学の特別講義として開催するレクチャー。現代演劇の動向や作品のほか、身体を使った実践を交えながら、演劇の最前線を学ぶことができます。

6月6日(土) 14:00-16:00

「創作・演出家のはなしを聞こう！声はどこからくるの？」

講師：松田正隆 (マレビトの会)

会場：スタジオA 対象：高校生以上 定員：50名 入場無料

松田正隆が、YCAMの滞在制作に先立ち、レクチャーに登場。「役者の声や言葉は誰のものか」、また「その声は舞台上でどう表現されるのか」など、マレビトの会ならではの演劇への発想を読み解くとともに、YCAMで発表する新作の背景とその魅力を語ります。

笹岡啓子写真展

8月1日(土) - 31日(月) 10:00 - 20:00

本作品と同名の写真シリーズ、笹岡啓子「PARK CITY」からのセレクション作品を展示いたします。舞台上での演出とは異なる雰囲気、笹岡啓子のオリジナルプリントを間近にご覧いただけます。

バックステージツアー

8月16日(日) / 23日(日) 14:00 - 15:00

YCAMバックステージツアー 2009

国内外で活躍するアーティストがYCAMに滞在し、専門のプロダクションチームYCAM InterLabとともに作品を制作する「滞在制作」。この制作の様子を見学することのできる好評のイベント「バックステージツアー」を今年も開催。「PARK CITY」が出来上がる過程、劇場の舞台裏にある照明や音響の仕組みなどもあわせてご紹介いたします。

○申込方法

はがき・FAX・e-mailにて、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、グループでお越しの場合はその人数をご記入の上、下記へお申し込みください。

申込期間：7月1日(水)～各回1週間前

〒753-0075 山口市中園町7-7 山口情報芸術センター バックステージツアー 2009係

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 e-mail: backstage09@ycam.jp

映画上映

8月7日(金) - 9日(日)

会場：スタジオC

入場料：一般 800円 any会員・特別割引 500円 (「CAMOCER」は入場無料)

本作「PARK CITY」のテーマに関連する映画を特集上映。これまでに松田正隆が携わった作品と「PARK CITY」のテーマでもある「広島」を舞台にした映画を上映します。

「美しい夏キリシマ」

2002年 / 118分 / 日本

監督：黒木和雄 脚本：松田正隆、黒木和雄 撮影：田村正毅

出演：柄本 佑、小田エリカ、石田えり、香川照之、原田芳雄、牧瀬里穂

(予定)「CAMOCER～長崎そしてチェルノブイリ」

制作・著作：テレビ西日本 演出：馬場明子

出演：松田正隆 ナレーション：蒼井 優

「ヒロシマモナムール」

1959年 / 91分 / フランス・日本

監督：アラン・レネ 脚本：マルグリット・デュラス 撮影：サッシャ・ヴィエルニ、高橋通子

出演：エマニュエル・リヴァ、岡田英次

「H STORY」

2001年 / 111分 / 日本

監督：諏訪敦彦 撮影：カロリーヌ・シャンプティエ

出演：ベアトリス・ダル、馬野裕朗、町田 康

○上映スケジュール

8月7日(金) 13:30「美しい夏キリシマ」 15:50「CAMOCER」 19:00「ヒロシマモナムール」

8月8日(土) 12:15「CAMOCER」 13:30「ヒロシマモナムール」 15:30「H STORY」

8月9日(日) 13:30「H STORY」 16:00「美しい夏キリシマ」

びわ湖ホール公演

10月24日(土) / 25日(日) 時間未定 大ホール舞台上舞台

■チケット

料金 一般 3,000円 / 青少年 2,000円 ※友の会会員は500円引き(青少年は除く)

チケット発売日：友の会7月31日(金) 一般8月2日(日)

■お問い合わせ：びわ湖ホールチケットセンター

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜15-1

TEL: 077-523-7136 (10:00-19:00 火曜休館 休日の場合は翌日)

■チケットのお求め

びわ湖ホールチケットセンター TEL: 077-523-7136

インターネット: <http://www.biwako-hall.or.jp/>



山口情報芸術センター Yamaguchi Center for Arts and Media

[開館時間] 10:00 - 20:00 (夜間イベントのある日は22時まで開館)

[休館日] 火曜日 (祝日の場合は翌日) / 年末年始 (12/29 - 1/3)

〒753-0075 山口県山口市中園町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216

e-mail: information@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>

